

解答

一

問一

- ① 僕を書くものを読んで共感してもらえるようにすること
③ 騒音の中でも、自分の名前は聞き逃さないこと
④ 学生たちが誰も僕の話聴かなくなること
⑦ 相手の虚を衝いた風水の話
自分にとって意味のない情報

問二

A ウ B イ C オ

問三

これからする話が「あなたに（すく）関係のある話」だという考え。

問四

「君たちのためになる話」という一般論を話すという印象を与える紹介をされたようなものだから。

問五

D ウ E イ

問六

思いがけない話が始まったことや、「自分への問い」を向けられ、生徒たちの身体が反応し始めたから。

問七

a 脳 b 身体

問八

鼻

問九

僕の話

問十

身体が開放

問十一

問十二 身体から「追加データをお願いします」「ノイズをカットしないでください」という要請が来て、情報を身体に流し込んでいくしかない状態になってしまっているから。

問十三

よくわからないという「宙吊り状態」になっているほうが、「もっと知りたい」という知性的な行動につながっていくから。

問十四

G エ H ア I オ J イ

問十五

聴き取り不 補てんする

問十六

聞こえません

問十七

人は「自分の身体に訊く」ことで、外からの情報に対して開放的になり、完全にはわからないという「宙吊りの状態」にあると「もっと知りたい」という気持ちが強くなる。それが「学ぶ」ということである。

二

1 衛星

2

骨格

3 車窓

4 興奮

5 簡素

6 辞職

7 品評

8 養〔う〕

9 垂〔らす〕

10 志〔す〕

解説

一

問十二

「データ不足につき回答不能。さらに追加データをお願いします」と言ってきた身体からの要請に対し、それが「有意なデータ」なのかわからない生徒は、「入力情報はそのまま体に丸投げするしかない。」という状態になって、「僕の話」を聞いてくれるようになります。「これが『耳の蓋』が開いた状態」であり、話を聴いてもらう体制がほぼ整ったことになる」と述べられています。

問十七

全文を通して「人の話を最後まで聴かせる方法」について述べられているようですが、筆者は本文の最後のほうで「そして、僕がたどりついた結論は、『自分の身体に訊く』ように仕向ければ、人は外界からの情報入力に対して開放的になり、貪欲になり、『もっとデータを』という前のめりの構えになる」「これが『学ぶ』ということです。」ということを伝えていきます。